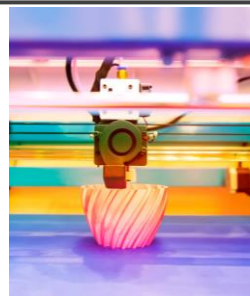


2025年10月1日
株式会社SVPジャパン

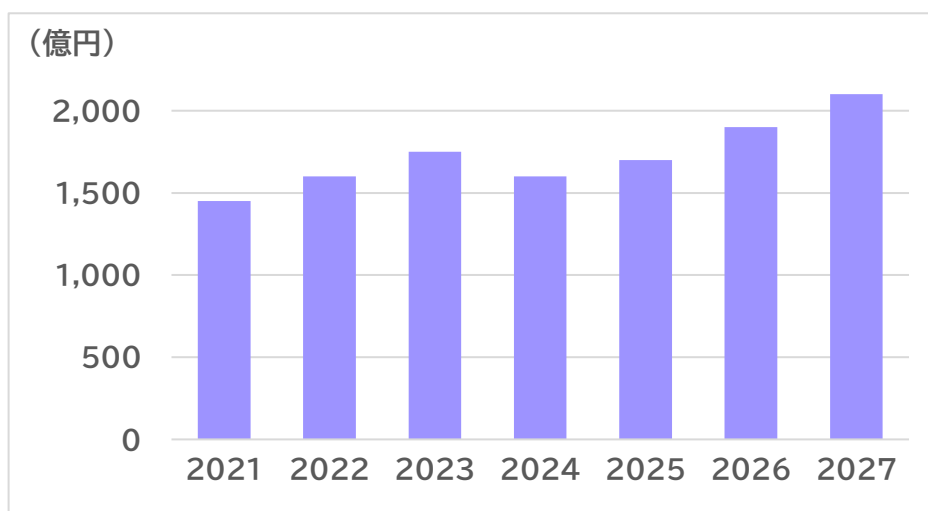
SVP注目市場分析 「3Dプリンター」を公開

～広がる用途、多様化する3Dプリンター技術～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「3Dプリンター-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ 3Dプリンターの世界市場

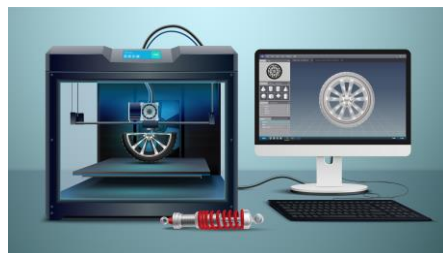


3Dプリンターは、3D CAD設計データに基づき樹脂や金属を積層して立体物を造形する装置であり、積層造形装置とも呼ばれる。3Dプリンターには様々な造形方式があり、代表的な方式としては、もっとも普及が進んでいるFDM（熱溶解積層方式）をはじめ、SLA（光造形方式）、SLS（粉末焼結積層造形）方式などがある。

2024年の市場規模は約1,600億円と推定される。2022年以降は拡大傾向が続いていたが、2024年は製造業の投資停滞などにより一転して縮小した。種類別では樹脂系が6割弱、金属系が4割強を占めるとみられる。地域別では欧米が中心で、日本の比率は依然として小さい。アジアでは中国に加え、インドや韓国なども拡大傾向にある。一方で材料需要は伸びており、既存ユーザーでの活用は着実に進展している。今後は投資回復に伴い、市場は再び成長に向かうと見込まれている。

■3Dプリンターの市場概況

3Dプリンター市場では、米国のStratasysと3D Systemsが先駆的存在として樹脂プリンター分野を牽引し、StratasysはFDM方式の開発や大型機の展開で強みを持ち、3D SystemsはSLAやSLSなど多様な方式と用途特化型の装置を展開している。金属分野ではドイツのEOSが主導的立場にあり、航空・宇宙や医療、自動車向けに幅広く導入されている。一方、周辺企業の動きも活発で、イスラエルのNano Dimensionによる買収拡大、米国GEグループやHP、ドイツのTrumpfなど大手メーカーの参入が進む。アジアでは中国メーカーが存在感を増し、日本でも二コやキーエンス、DMG森精機などが事業を拡大している。市場は米欧の大手を中心に、アジア勢が台頭する多極化の様相を強めている。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

11月のテーマは「AI関連システム構築・活用支援サービス」と「スマートフォン」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com